

そう だい
総 題 「三つの宇宙的メッセージ」

だいろっ か
第 6 課

さば とき
裁きの時

よしむら しのぶ
吉村 忍

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

かみ さば ひ
神の裁きの火は、カルバリーのキリストの上で燃えつきました。キリストにあるすべての者たちは、キリストの
つばさ もと かぎ えいえん あんぜん
翼の下にいる限り永遠に安全です。キリストが犯罪人の一人として裁かれたので、私たちは永遠の死に至ら
ほろ ひ じゅう かのう
せる滅びの火から自由になることが可能となりました。

に にちようび せいじよ きよ
2. 日曜日：聖所の清め

つみ けが せいじよ きよ
罪によって汚された聖所を清めるために、年に1度、大祭司が至聖所に入って奉仕をしました。その日は「贖罪
ひ よ
の日」と呼ばれ、ユダヤの暦で7月10日でした。大祭司は、イエス・キリストを象徴していました。

「贖罪の日」に、2頭の山羊のためにくじを引き、1頭をキリスト、もう1頭はアザゼル（悪魔）をあらわすも
のとなりました。大祭司はキリストをあらわす山羊をほふり、その血を持って至聖所に入り、十戒が入っている箱の
うえ そそ きじゅうろくしやう もと しせいじよ で だいさいし
上に注ぎました（レビ記16章に基づく）。至聖所から出てきた大祭司は、アザゼル（悪魔）を代表する山羊
あたま て お じん つみ こくはく つみ やぎ うつ あらの はな
の頭に手を置いて、すべてのイスラエル人の罪を告白し、罪を山羊に移し、荒野に放ちました。すると、その山羊
もど き
は戻って来ませんでした。この行為は、象徴的に罪が取り除かれたことを意味していました。

まいとししちがつとおか
毎年7月10日には、すべてのイスラエル人が聖所のまわりに集まり、自らの罪を悔い改め、罪のゆるしを
もと ひ げんしゅく ひ く あらた ひとりひとり つみ せいじよ かんぜん と のぞ
求めました。その日は、とても厳粛な日でした。悔い改めた一人一人の罪は、聖所から完全に取り除けられま
た。

かれ い にせんさんびやく ゆう あさ あいだ
「彼は言った、二千三百の夕と朝の間である。そして、聖所は清められてその正しい状態に復する」（ダニ
エル書8：14、口語訳）。「清められる」の原語「ニツダク」は、「義と宣言される、正しさが証明される（疑
いを取り除かれる）」と訳することができます。「審理し、無罪とし、救済する」ということです。ダニエル書8：
じゅうよん いみ かみさま みな かみさま しん たみ ただ あき
14の意味は、神様の御名があがめられ、神様を信じてきた民の正しさが明らかにされるということです。

さん げつようび にせんさんびやくにち お とき
3. 月曜日：2300日と終わりの時

しょはっしやう てんし にせんさんびやくにち よげん せつめい はじ
ダニエル書8章で、天使ガブリエルは2300日の預言の説明を始めています。ガブリエルは、雄羊はメデ
おう め やぎ おう なまえ あ はち にじゅう にじゅういち つぎ せいりよく
ィアとペルシャの王、雄山羊はギリシャの王であると名前を挙げています（ダニエル8：20、21）。次の勢力

である小さな角は、異教ローマと教皇制ローマをあらわしています（同 8：9、23、24）。「・・・真理を地にあげうち、思うままにふるまった」（同 8：12）とありますが、これは異教ローマと教皇制ローマにかみさま みことば はん げんどう み しめ はち じゅうよん せいじょ きよ しょうの御言葉に反する言動が見られるということを示しています。ダニエル 8：14 の聖所の清めは、この章のクライマックスであり、神の権威を奪おうとする地上の宗教的勢力の挑戦に対する神の答えです。また、これは、罪の問題に対する神の聖なる解決策の一部です。

天の聖所の清めについて

- 1) 地上の聖所が清められたように、天の聖所でも記録された私たちの罪が清められなければなりません。
- 2) 聖所を清める働きは、記録の書を調べることから始まります。再臨前審判は、1844（せんまつびやくよんじゅうよ）年から始まっています。
- 3) 再臨前審判の終わりに、イエス・キリストは悪のすべての記録を取り除いた後、地上においてになります。

4. 火曜日：ダニエルに対する天使の告知

ダニエル書 9：24 「あなたの民と、あなたの聖なる町については、70 週が定められています。」天使は、ダニエルに、「時」に関することを告げました。ダニエル書 9：24 は、どのような意味なのでしょう？「あなたの民」とはユダヤ人のことを指し、「あなたの聖なる町」とはエルサレムのことです。70 週は、ユダヤ人が神様に従うことができる特別な猶予期間のことです。

ダニエル書 9：24 の「定める」は、原語のヘブル語では「大きなものの一部を切り取る」という意味があります。つまり、2300 日（2300 年）の預言の中に 70 週が含まれていると言うことです。預言における「1 日＝1 年」の原則を適用しますと、70 週は 490（よんひやくきゅうじゅう）日ですので、490（よんひやくきゅうじゅう）日は 490（よんひやくきゅうじゅう）年となります。

5. 水曜日：「断たれる」メシア

エズラ記 7 章に記されていますアルタセルクセスがエルサレム再建命令を出した紀元前 457（よんひやくごじゅう）年の秋が、2300 年の預言の起算点になっています。エルサレム再建命令が出された紀元前 457（よんひやく）年から 69 週（483（よんひやくはちじゅうさん）年）後の西暦 27 年に、イエス・キリストはバプテスマを受けられ、公生涯にお入りになりました。ルカ 3：23 によると、イエス・キリストが公生涯にお入りになられた

時に年齢は 30 歳です。

ダニエル書 9：27 の「一週」は、7 年のことです。「その週の半ば」とは、「半週」ですから 3 年半のことです。イエス・キリストがバプテスマを受けられてから 3 年半になる西暦 31 年に、イエス・キリストは十字架につけられました。

ダニエル書 9：24～27 には、イエス・キリストについて記されています。

1) イエス・キリストの十字架の犠牲の死の時期が予告されています。

2) イエス・キリストはご自分の罪のためではなく、人類の罪の身代わりとして十字架にかかってくださいます。

3) 地上の聖所の奉仕を廃止なさいます。(十字架によって、象徴としての動物の犠牲をささげる儀式が終わ

ろく もくようび ねん
6. 木曜日 : 1844 (せんはっぴゃくよんじゅうよねん) 年

にせんさんびやくねん さいしよ ねんかん しよりん あ せいれきさんじゅうよねん お
2300年の最初の490(よんひゃくきゅうじゅう)年間はいえす・キリストの初臨に当てはまり、西暦34年に終

にせんさんびやくねん
2300年から490(よんひやくきゅうじゅう)ねんさひ
年を差し引くと1810(せんはつひやくじゅうねん)ねん
年が残ります。1810(せんはつひやくじゅう)

ねん かみ たみ あ せいれきさんじゅうよねん きてん ねん くわ
 年は神の民に当てはまります。西暦 3 4 年を起点として 1810 (せんまつびやくじゅう) 年を加えると 1844 せんまつびやくよ

1844 (せんはっぴやくよんじゅうよ) 年^{ねん}から、天^{てん}ではイエス・キリストによる罪^{つみ}の最終^{さいしゅうてき}的^{じょきょ}な除去^{はたら}の働^{はじ}きが始^{はじ}まっています。

け さ ひつようふ かけつ ひと こじんてき すく めし しん まこと つみ
が消去られるために必要不可欠なことは、その人がイエス・キリストを個人的な救い主として信じ、真に罪

レビ記 2 3 : 2 6 ~ 2 9 をお読みいただきたいと思います。イスラエルの民は「身を悩ま」(レビ記

ゆうさん にじゅうなな こうごやく ひょうげん だいさいし ちじょう せいじょ きよ かれ
3 : 2 7、口語訳) さねばなりません。この表現は、大祭司が地上の聖所を清めたように、彼ら

7. ^{なな}**金曜日**：^{きんようび}さらなる^{けんきゅう}研究

もくようび　ないよう　かんれん
木曜日の内容に関連して、エレン・G・ホワイトの言葉をご紹介します。

「われわれは、^{いま}今、^{おお}大いなる^{しよくざい}贖罪の日^ひに生存している。^{かた}型としての^{ぎしき}儀式においては、^{だいさいし}大祭司がイスラエルのため

贖罪しよくざいをなしている間、すべての者あいだのものは、主しゅの前に悔まへ改くめ、心こころを低ひくくすることによって、身みを悩なやまさなければ

にひやくにじゅうよん
卷、 p. 2 2 4)

いま わたし げんしゆく じだい あゆ さいりん わたし さいだい のぞ ひび
今、私たちは厳肅な時代を歩んでいます。イエス・キリストのご再臨を私たちの最大の望みとして、日々、

に^あ会^{そな}う^{おも}備^{しゆ}え^{だいいち}を^{じゅうろく}さ^だせて^いた^だき^{たい}と^{おも}い^{ます}。「マラナ・タ(われらの主よ、きたりませ)。(コリント第一、16 :